

「眼瞼挙筋腱膜前転法」とは

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 24 》

皮膚や筋肉がたるんで、まぶたが下がり、物が見づらくなる眼瞼下垂。交感神経に關与しているミューラー筋を温存したまま、目の開けやすさを改善し、頭痛や肩こりの治療法としても注目される「眼瞼挙筋腱膜前転法」が県立中央病院で行われている。

まぶたは、瞼板という組織を、眼瞼挙筋とミューラー筋という二つの筋肉が収縮することによって引き上げて開く。眼瞼挙筋の力が弱かったり、眼瞼挙筋と瞼板をつなぐ挙筋腱膜が瞼板から外れてしまったりすると、うまく瞼板を引き上げることができない。そうすると、眼瞼挙筋の働きを補うためにミューラー筋が過剰に緊張



小林 公一
形成外科科長

頭痛、肩こり治療で注目

し、頭痛や肩こりなどの症状を引き起こすことが、近年、分かってきた。

眼瞼下垂には、生まれつき眼瞼挙筋の力が弱い先天性眼瞼下垂と、ハードコンタクトレンズの長期使用や加齢などによって生じる後天性眼瞼下垂がある。県立中央病院ではここ数年、挙筋腱膜が瞼板から外れる腱膜性眼瞼下垂に皮膚のたるみが加わった、加齢による眼瞼下垂患者が目立ち、手術件数は年間約50例に上っている。

腱膜前転法はミューラー筋を傷つけることなく、挙筋腱膜だけを瞼板に固定するため、ミューラー筋が緩んで交感神経の緊張がとれ、頭痛や肩こりの改善にも効果的という。このほか、加齢による眼瞼下垂の手術では、たるんだ皮膚を切除し、きれいな二重まぶたを形成。たるんだ脂肪を電気メスで焼いて引き締めることで外見的にもすっきりとした目になるよう工夫している。

小林医師は「見つらさの原因を白内障と思って眼科から紹介されてくる人が多い。手術によってまぶたが楽に上がり、世の中が明るく見えるようになる。ただ頭痛や肩こりにはさまざまな原因があり、必ず改善されるわけではない」と話している。

形成外科科長の小林公一医師によると、たるんだ眼瞼挙筋をミューラー筋と一緒に瞼板に縫い付ける、従来の「眼瞼挙筋前転法」はミューラー筋を刺激してしまう。一方、眼瞼挙筋

眼瞼下垂の手術

眼瞼挙筋腱膜前転法

